

平成元年度
南国市の遺跡

(内 容)

1. 南国市遺跡詳細分布調査書
2. 南国市遺跡詳細分布調査図



平成 2 年 3 月

南国市教育委員会

南国市の遺跡

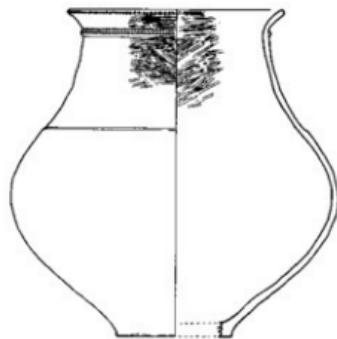
—平成元年度 南国市遺跡詳細分布調査報告書—



1990年3月

南国市教育委員会

南国市の遺跡



1990年3月

南国市教育委員会



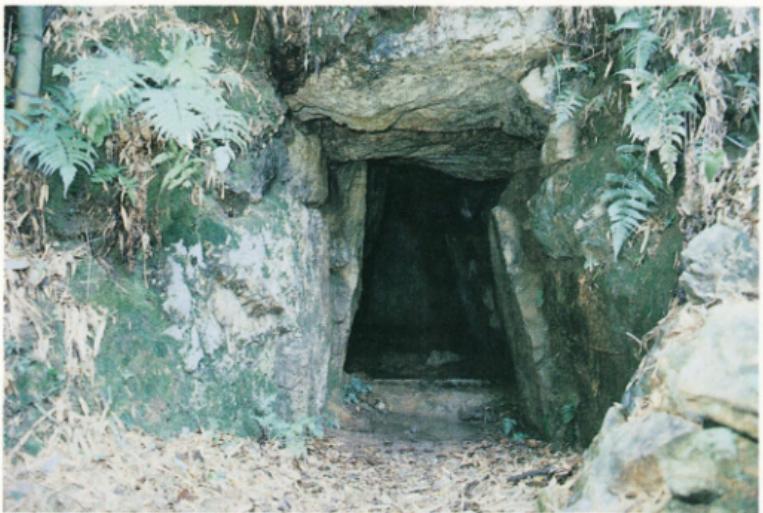
田村遺跡群 水田跡



田村遺跡群 出土石包丁



田村遺跡群 土塙出土の弥生土器



小蓮古墳



土佐国府跡 松ノ下地区(第8次調査)



土佐国分寺跡 金堂北柱穴群



比江庵寺跡 塔心礎



田村城跡 外濠



岡豊城跡 三ノ段礎石建物跡



岡豊城跡 刻銘瓦

序

南国市は高知県の中央部に位置し、田園地帯の広がる高知平野の大半を占めています。古来より物部川や国分川の恵みを受け、土佐の中心地として栄えてきました。市域全体をみれば、南部には高知空港拡張整備事業に伴い発掘調査が行われ、縄文時代から近世に至る県下でも最大の複合遺跡である田村遺跡群、中世土佐国守護代であった細川氏の居城である田村城跡などが所在しています。一方北部に目を向ければ、古代土佐国を中心とした土佐国府跡や土佐国分寺跡をみるとことができます。さらに、山麓部には小蓮古墳や舟岩古墳群などの古墳も多く残されています。このように南国市は、周辺の土佐山田町や野市町などと共に自然と文化財がよく残されており、歴史の宝庫ということができます。

しかし、近年南国市においても開発の波は大きく押し寄せており、高速道路、国道バイパスの建設など道路網の整備が進められています。これに伴い各種の開発も増加しており、事前の緊急発掘調査も急増の一途をたどっています。このような状況の中で埋蔵文化財の保護、保存を進めるためには、充実した遺跡地図の存在が必要です。

南国市では、県において実施している香美・長岡郡下町村の遺跡分布調査（昭和63年・平成元年度）にあわせ、平成元年度に市内の遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果をここに地図と小冊子にまとめました。この遺跡地図が市内の埋蔵文化財を守るために活用され、遺跡の保存への一助になれば幸いです。

最後に現地踏査、資料整理等で御協力、御指導をいただいた県教育委員会と各地元の方々に感謝を申し上げます。

平成2年3月

南国市教育委員会

教育長 鈴江廣幸

例　　言

- 1 本書は、平成元年度国庫補助事業として南国市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査の報告書及び遺跡地図である。
- 2 分布調査は、高知県教育委員会が昭和63年・平成元年度に実施した香美・長岡郡下町村の分布調査と同方法により行った。
- 3 遺跡地図は、南国市調製の2.5万分の1地形図に遺跡の範囲を赤線により示した。
- 4 本書の作成にあたっては、Ⅰ・Ⅱを森田尚宏（高知県教育委員会文化振興課主幹）、Ⅲ及び遺跡地図を浜田清貴（南国市教育委員会社会教育課主事）と森淳子（南国市教育委員会社会教育課文化財嘱託調査員）が担当した。
- 5 現地踏査、資料整理にあたっては、調査補助員である武田勝（南国市教育委員会社会教育課社会教育指導員）に御尽力をいただいた。
- 6 本書に使用した図面、写真等は次の報告書から掲載した。また、未掲載の写真等については高知県教育委員会の提供を受けた。記して感謝する。
「南国市史」（上巻） 1979年 南国市
「よみがえる田村遺跡群」 1987年 高知県教育委員会
「土佐國分寺跡」（第二次発掘調査概要） 1989年 南国市教育委員会
なお、表紙の写真は土佐國府跡周辺の航空写真である。
- 7 現地踏査の結果をまとめた遺跡台帳は、南国市教育委員会において備え、周知を図っている。

目 次

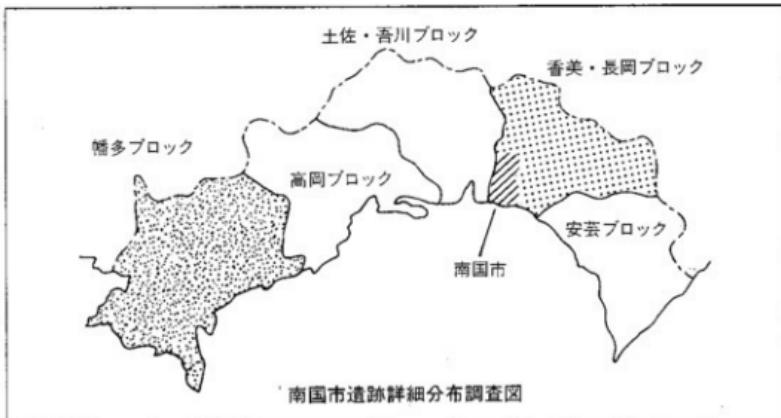
I	遺跡詳細分布調査の概要	1
II	市内の主要遺跡	3
1	田村遺跡群	3
2	東崎遺跡	13
3	小蓮古墳	15
4	舟岩古墳群	17
5	土佐国府跡	19
6	土佐国分寺跡	21
7	比江廃寺跡	23
8	田村城跡	25
9	岡豊城跡	27
III	南国市遺跡地名表	31

I 遺跡詳細分布調査の概要

南国市は高知県の中央部にあたり、県下最大の平野である高知平野の大半を占めている。高知平野は物部川と国分川による沖積地であり、この2河川により潤い、古代より開発の進んだ地域である。そして、古くから多くの遺跡が知られており、市域内には149遺跡が確認されていた。また、平野部を占める周辺の町村である土佐山田町と野市町を含めると222遺跡となり、県内の遺跡の約30%を占め、遺跡の分布密度としては県内最高である。しかしながら従前の遺跡地図では遺跡の空白地帯が残されており、さらには開発工事等により新たな遺跡が発見される例も多くあることから、未確認の遺跡が多数存在するものと考えられていた。特に長岡台地を中心とする地域には遺跡の所在が少なく、今後の分布調査が必要とされていたところである。

今回の遺跡詳細分布調査の実施にあたっては、高知県教育委員会が昭和61年度から県内を5ブロックに分け、町村を対象として各ブロック2ヶ年とする遺跡詳細分布調査を行っており、昭和63年・平成元年度の香美・長岡ブロックと並行して行った。調査の方法についても県の行っている分布調査と統一を図るために同様の方法をとることとした。また、市域を以下の各地区ごとにまとめ、順次現地踏査、資料整理を行った。

瓶岩地区・久礼田地区・植田地区・領石地区・笠ノ川地区・定林寺地区・小蓮地区・八幡地区・蒲原地区・吉田中島地区・明見地区・国分地区・比江地区・三島地区・陣山地区・上、下末松地区・西山地区・岩村地区・小篠地区・野中地区・大塙地区・野田地区・立田地区・田村地区・前浜地区・片山地区・稻生地区・十市地区・里改田地区・浜改田地区



分布調査の結果、南国市の新発見の遺跡は123遺跡であり、従前の周知の遺跡149遺跡との合計は272遺跡である。この遺跡数は県内市町村の中では最も多く、古来土佐の中心地であった高知平野の大半を占めている結果である。また、周辺の町村としては土佐山田町が新発見の遺跡数140と最も多く、周知の56遺跡との合計も196遺跡と南国市について多數の遺跡が確認されている。遺跡の種別では散布地の増加が最も多く61遺跡が発見されている。周知の遺跡との合計も132遺跡と最も多く、市内の遺跡の過半数近くを占めている。また、遺跡数の増加しているものとして古墳15基をみることができ、合計80基を数える。土佐山田町の40基を加えると120基となり、県内古墳の90%以上を占め、古墳時代における南国市域の優勢を示すものと考えられる。なお、城館跡の増加については昭和48年の遺跡地図からの増加であり、昭和58年の中世城館跡分布調査により集録されている。

次に遺跡の時代別では、古墳時代の新発見遺跡61で合計136遺跡、中世の新発見遺跡47で合計62遺跡、弥生時代の新発見遺跡25で合計54遺跡と古墳、中世、弥生の各時代の遺跡が増加している。この中で古墳時代の遺跡数には古墳が入っているために非常に多いが、これを除けば弥生、古墳、中世の各遺跡は50~60遺跡と平均した分布を示している。

以上の結果からみれば、南国市においては古代ではやや遺跡数は減少しているが、弥生時代から中世にかけて一環して多数の遺跡が存在しており、また圧倒的な古墳の存在は、やはり高知県における最も中心をなす地域であることが明らかである。そして、高知県の歴史を知る上では欠くことのできない遺跡が多く存在しており、今後の開発に対する埋蔵文化財の保護が重要な課題となっている。

種別	散布地	集落跡	城館跡	古墳	癪跡	官衛跡	寺院跡														
遺跡数	71	61	132	0	2	2	6	36	42	65	15	80	1	0	1	0	1	1	3	0	3
種別	社	寺跡	經塚	墓	砲台跡	その他	合計	新発見遺跡数(%)												周知の遺跡数	
遺跡数	3	1	4	0	0	0	5	7	12	0	1	1	9	0	9	163	124	287	76.1		

時代別	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・白鳳	奈良														
遺跡数	0	0	0	7	7	29	25	54	75	61	136	1	0	1	10	7	3			
時代別	平安	中世	近世	複合	合計															
遺跡数	18	15	3	15	47	62	16	5	21	0	103	103	164	226	390					

(三枠内数字について、左枠：周知の遺跡数、中枠：新発見遺跡数、右枠：合計遺跡数)

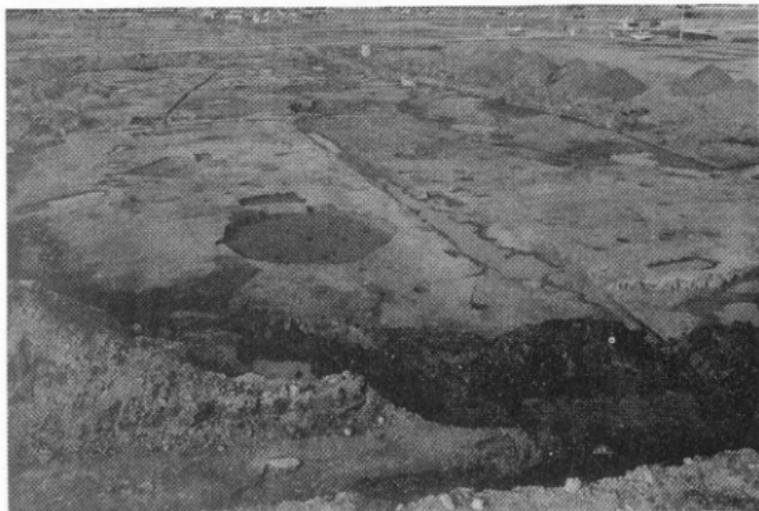
II 市内の主要遺跡

1 田村遺跡群

田村遺跡群は、南国市の南半部に広がる香長平野、その東部を流れる物部川の河口近く、海岸線から北方約3kmに位置しています。遺跡の立地は、標高5~7mの物部川の自然堤防上を中心としており、その範囲は約30万m²にもおよぶと推定されている、きわめて大規模な遺跡です。

この遺跡の発掘調査は、高知空港拡張整備事業に伴い行われ、昭和55年から昭和58年にかけて約15万m²が調査されました。空港拡張に伴う調査以前にも、この地域の北部には弥生時代前期の遺跡として有名な西見当遺跡や、中世土佐国の守護代細川氏の居館である田村城跡（昭和43年1月10日付・市指定史跡）が所在しており、他にも柿ノ木、南土居ノ前、神田屋敷などの遺跡が知られていましたが、全体的には遺物の分布密度も低く、このような大規模遺跡の存在は予想されませんでした。

発掘調査の結果、田村遺跡群は縄文時代から近世にわたる巨大な複合遺跡であることが判明しましたが、最も中心となるのは弥生時代と中世の2時期でした。縄文時代では後期の遺物包含層が発見されており、土器とともに多量の打製石斧（石鎚）と石錘が出土しています。標高5m前後の沖積地という低地の立地や出



弥生時代初頭の集落跡

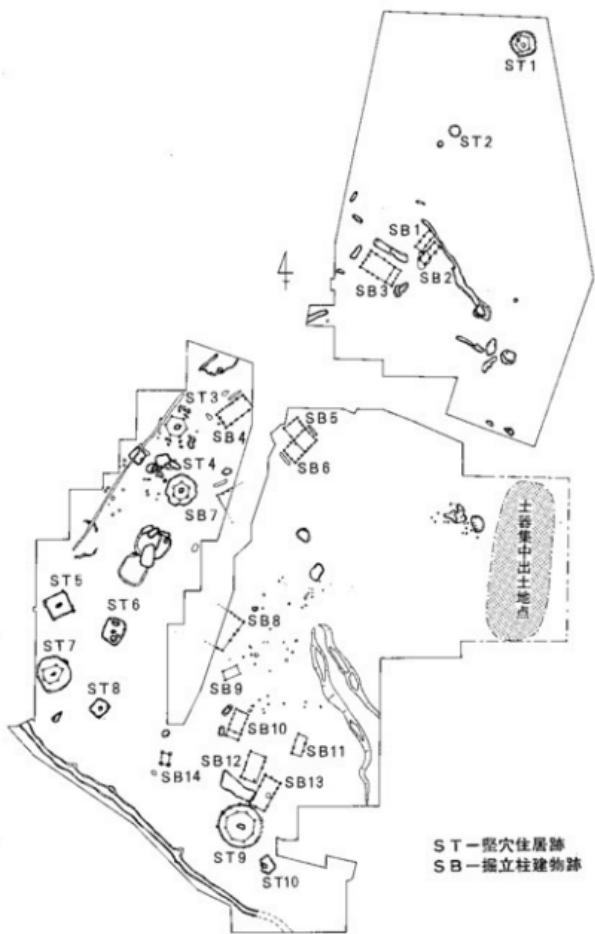
土遺物からみれば、根茎類の採集、魚撈が生業の中で大きな位置を占めていたと考えられます。

弥生時代では、前期初頭から後期前半にわたる多量の遺構と遺物が発見されています。中でも注目されるのは前期初頭の集落跡であり、その全体が発掘された例としては全国でも唯一のものとみられます。集落跡は約27,000m²の範囲に10棟の竪穴住居跡と14棟の掘立柱建物跡から成っており、中央部が広場となるように半円形に造られています。竪穴住居跡には円形と方形の2種類があり、大きさも直径8m以上の大形と3mほどの小形の2種類が発見されており、住居や工房などの性格の違いなどをみることができます。掘立柱建物跡も高床倉庫と住居に使われたもの2種類が存在しています。出土した土器は最も古い弥生土器であることから、高知平野に最初に出現した弥生時代の集落であったことが判明しました。この集落は、20~30年後には放棄され、北方の西見当遺跡へと移動しています。西見当遺跡も前期の集落跡であり、集落の囲りを溝で囲む環濠集落であることが分っていますが、集落跡の一部しか調査されていないので、その全体像は不明です。これ以後、前期後半になると南国市周辺へ分村が行われ、遺跡数も増加します。田村遺跡群でも南東部で竪穴住居跡4棟からなる小規模な集落が発見されています。



方形の竪穴住居跡

また、前期の生産遺跡としては、244枚の小区画水田跡が発見されており、水田面には弥生人の足跡も残されていました。



弥生時代前期・初頭の集落全体図



水田跡全体図



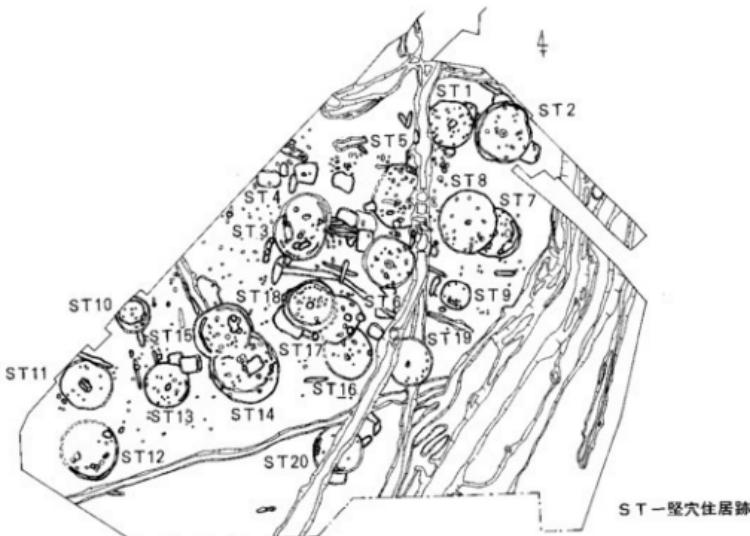
水田面に広がる足跡



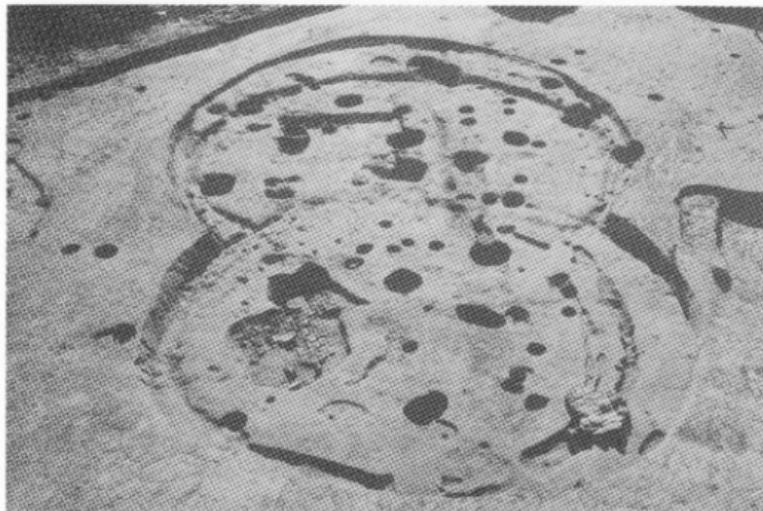
土地を踏みしめた足跡

弥生時代中期では、西方に集落が造られており一部しか調査されていませんが、竪穴住居跡数十棟からなる大規模な集落の存在が確認されています。その大半はこの時の調査区外に位置しており、その保護が今後の問題となっています。中期末から後期前半にかけての集落跡も北西部で発見されました。この集落では竪穴住居跡が20棟検出されました。やはり半分以上は調査区外に広がっており、集落の全体像は今後の調査の課題です。住居跡の中には、屋根や柱などの木材が焼け落ちた状態で出土したものもあり、当時の火事の状況を再現することができます。また、住居跡からは、壺、甕、高杯、鉢などの土器とともに勾玉、管玉、ガラス小玉などの装飾品や中国製の銅鏡である方格規矩四神鏡の破片なども出土しており、人々の生活や祭祀の姿を窺い知ることができます。

弥生時代後期後半になると遺構、遺物は非常に少なくなり、集落は田村の地から北方の長岡台地へと拡散しているようです。以上のように、田村遺跡群は高知平野における最初の弥生時代の集落跡であり、後期後半までの間は大規模な中心的集落が発展した遺跡と考えられ、高知県における弥生文化を知る上では最も重要な遺跡と言えます。



弥生時代中～後期の集落跡



2棟の竪穴住居跡



土塙から出土した土器
(1壺、2甕、3・4高杯)

田村遺跡群の古代の遺構としては、規格性の強い掘立柱建物跡14棟が発見されました。掘立柱建物跡は主屋と考えられる建物を中心に、周囲には倉庫とみられる建物がコ形に並んでいます。出土遺物からは平安時代前半の遺構であり、建物の規模や配置からみれば、「田村庄」と呼ばれる荘園に関係する遺構ではないかと考えられています。



古代の掘立柱建物跡配置図



古代の掘立柱建物跡

中世、室町時代になると守護代細川氏の居館である田村城跡が当地に営まれます。田村城跡の南部である今回の調査区からは、溝に囲まれた屋敷跡が31ヶ所発見されました。周囲を囲む溝は、深さ30cmから1mと差がみられますが、小規模なものが多く、屋敷地の区画を示す排水溝的な溝と考えられます。大きさは1辺30~50mであり、1軒だけ独立するものと数軒が隣接するものがみられます。屋敷地の内には、やや規模の大きい主屋と考えられる掘立柱建物跡が北寄りに位置し、他に数棟の掘立柱建物跡が存在しています。建物跡には2~3度の建替がみられ、約100年ほどの期間使われていたようです。また、16ヶ所の屋敷地では、石組みの井戸が発見されています。井戸は深さ3~4mであり、底には木をくりぬいた井筒が入れられていました。これらの屋敷跡は、14、15、16世紀の3時期に分けられ、守護代細川氏の入部以前、細川氏の時代、以後の戦国時代の変遷を知ることができます。

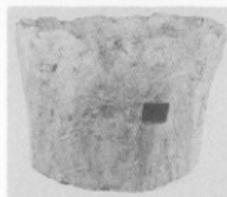
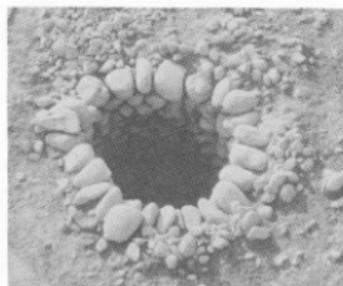
以上のように、田村遺跡群は縄文時代から中・近世にわたる貴重な遺構、遺物が発見されたきわめて重要な遺跡であり、その保護、保存が今後の課題となっています。



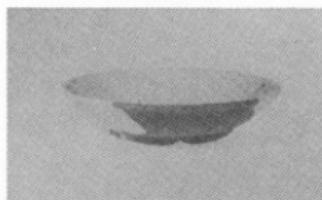
環濠屋敷跡



環濠屋敷と建物配置図

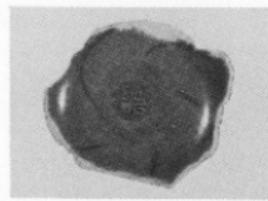


石組みの井戸と井筒



瀬戸焼天目茶碗

白磁皿



青磁碗

青磁碗

環濠屋敷跡からの出土遺物

2 東崎遺跡

東崎遺跡は、今回の分布調査の結果により新たに命名された遺跡です。従来は、高知農業高校校庭遺跡として周知されていた遺跡でしたが、その後の発掘調査等からみて、より広範囲な大規模遺跡と考えられたので、遺物の分布範囲を一括し東崎遺跡としてまとめられました。

高知農業高校校庭遺跡は、校舎の建設時に多量の土器が発見され、確認されました。出土した土器はヒビノキⅠ・Ⅱ式であり、弥生時代後期後半～末の集落跡と考えられていました。また、農業高校の付属果樹園からは同時代の壺棺墓が発見されており、集落に伴う墓域ではないかと推定されていました。その後、調査される機会がなく、遺跡の広がり、内容について不明な点が多くありました。昭和57年に付属実習用畑（元果樹園）の南側を流れる水路の改修工事中に壺棺墓2基及び土塗墓3基が発見されました。この結果をもとに、昭和58年には実習用畑を対象として国庫補助事業による確認調査が行われ、竪穴住居跡3棟、壺棺墓2基、土塗墓2基が検出されました。時期的には弥生時代終末から古墳時代初頭にかかるものであり、やはり農業高校校庭遺跡と一体となる遺跡（五軒屋敷遺跡）と考えられました。さらに、昭和63年、平成元年にも周辺の水路や道路の改修工事が行われ、これに伴い調査を実施したところ、竪穴住居跡3棟と土塗、溝等を検出することができました。

平成元年度には、農業高校の体育館新築工事に伴う発掘調査が1,200m²にわたり行われました。この発掘調査では、竪穴住居跡13棟、高床倉庫と考えられる掘立柱建物跡、壺棺墓2基、溝、土塗、ピット等が検出され、多量の土器が出土しています。住居跡からは、さらに鉄製の農具である鋤先、鍬先、摘鎌や鐵鎌、鉈などの豊富な鉄製品も出土しました。竪穴住居跡には重複関係がみられ、弥生時代後期後半から終末にかけて、少なくとも3～4時期にわたる遺構の変遷をうかがうことができます。

以上のように、高知農業高校校庭遺跡や五軒屋敷遺跡を包括する大規模遺跡である東崎遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての南国市における中心的な遺跡と考えられ、南部の田村遺跡群から長岡台地上にその中心を移したものと推定されます。長岡台地上には、弥生時代後期後半になると大規模な遺跡がみられ、土佐山田町のヒビノキ遺跡、林田遺跡、南国市の三畠遺跡などとともに拠点的集落として、東崎遺跡も成立したようです。広範囲な遺跡であるところから、その全体像は不明な点が多いのですが、今後も重要遺跡として注目されているので、遺跡の保存をより強く進めなければなりません。



豎穴住居跡遺物出土状態



隅丸方形豎穴住居跡

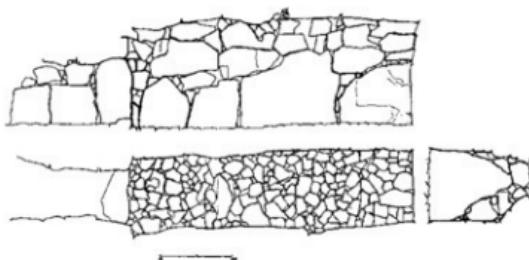
3 小蓮古墳

小蓮古墳は、岡豊町小蓮の山麓部に位置する横穴式石室をもつ古墳であり、墳丘、石室ともよく残されています。昭和3年には県指定史跡とされており、南国市の明見彦山1号墳や高知市朝倉の朝倉古墳とともに県内では最大規模をもつ古墳です。古墳の立地は、国道32号線に面する丘陵南斜面の舌状台地端部であり、標高40m前後です。墳丘は2段の椭円形の円墳であり、下部は東西22m、南北28mとやや南北が長くなっています。裾部は周囲の畠により2m前後削られていますが、上部は原形を残しており、東西14m、南北20mです。墳丘の盛土は7.13mと大形です。

石室は、墳丘の長軸にそって築かれ、南に向け開口しています。石室の形態は両袖式であり、羨道をもっています。石材は大形の硅岩の割石と自然石が使用されています。奥壁は2段、側壁は3段に積んでおり、1段目は2m前後の巨石を使い、2・3段目にはやや小形の石材を使い、持ち送りがみられます。石室は、玄室の長さ7.6m、幅2.1m、羨道部は長さ3.2m、幅1.4mであり、全長10.8m、高さ3m前後です。床面に割石による石敷がみられ、ほぼ水平となっています。

古墳の入口はすでに開口していましたが、昭和46年に発掘調査が行われ、床面からは須恵器の杯、高杯、蓋、直口壺、甕と装身具の金銅中空玉、金環、武具の鉄刀子、鉄鎌、馬具である辻金具、革金具、轡、工具の鉢が出土しており、豊富な副葬品をもっていたことがわかります。

古墳の規模や副葬品からみれば、小蓮古墳は南国市の古墳時代における最も有力な首長墓であり、現岡豊町を中心とする広い地域を支配したものと考えられます。



小蓮古墳石室



小蓮古墳全影



石室内部

4 舟 岩 古 墳 群

舟岩古墳群は、小蓮古墳の北に位置する舟岩山から大平山にかけて所在する22基の古墳群の総称です。標高100~120mの尾根上から南斜面にかけて点在しており、いずれも横穴式石室をもつ円墳です。時期的には古墳時代後期末の群集墳と呼ばれるものであり、小蓮古墳の後に続くものです。

古墳群の調査は、昭和43年の開拓バイロット事業に伴い行われましたが、調査後に破壊されたもの、また以前に早くからみかん園造成のためにすでに破壊されたものもあり、現在では6基が残されています。墳丘は直径18m前後の1号墳もありますが、他は10~12mと小形の円墳です。石室は、かなり崩壊したものが多かったようですが、羨道をもち、両袖式、片袖式の両者がみられます。

石室からの出土遺物には、須恵器、馬具、装身具である金環、銀環、玉類、鉄製武具、工具などがみられます。中でも馬具には、装飾品である雲珠、杏葉、飾金具などが豊富であり、共伴する鉄鎌、鉄刀などとともに強力な権力の存在が考えられます。

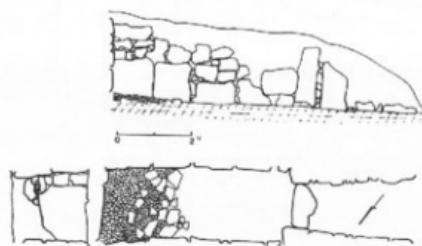
岡豊町を中心とする高知平野の北部を支配下におく有力者の墳墓として小蓮古墳が存在しますが、以後、地域の各々の有刀者も力を貯え、小規模な古墳が多数築造されます。さらに、家族墓としても古墳が造られるようになり、群集墓として出現します。舟岩古墳群は、各々権力を確立した地域有力者の墳墓であり、県下最大の群集墳であるところから、やはり南国市における最大の勢力をもつ集団が存在していたと考えられます。



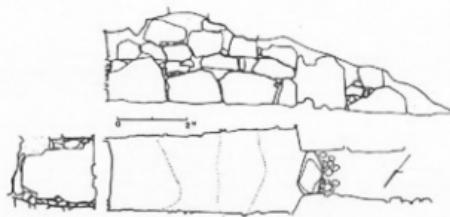
舟岩古墳群全景



舟岩 5 号墳



舟岩 2 号墳石室

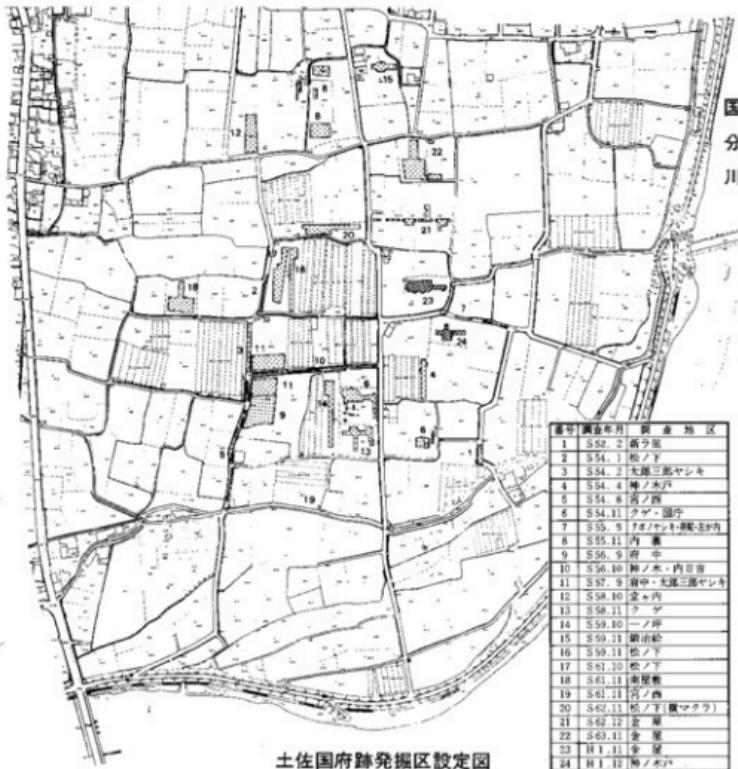


舟岩 3 号墳石室

5 土佐国府跡

土佐国府跡は南国市の北部、国分川の北岸に位置しており、南部の香長平野を望むとともに国分川による水運に利しています。現地の小字には、「内裏」「府中」「国庁」など、国府に関係すると考えられるものが残されており、昭和54年からこの小字を手懸りの一端として調査が開始されています。本年度までで第10次にわたる調査が行われていますが、国衙の中心である政庁の位置はまだ確認されません。

国府は、律令制度の開始とともに全国の各国におかれた地方行政機関であり、方6～8町の方形区域を国府域とした規格性の強いものと考えられていました。国衙は国府の中でも各役所の建ち並ぶ官衙であり、国府の中心となる地域です。さらに、国衙には中心となるべく政庁が置かれ、国司の政務が行われていたと考えられています。政庁の存在や国衙域については、各地の国府の調査で確認されていますが、国府域については現在のところ確証がなく、今後の検討課題です。



土佐国府跡の調査では、掘立柱建物跡67棟をはじめとし、溝、土坑、堀、竪穴住居などが検出されています。掘立柱建物跡は、奈良時代9棟、奈良末～平安時代初頭16棟、平安時代13棟が確認されていますが、政庁の正殿または脇殿と考えられる規模の建物跡はなく、政庁周辺の官衙群とみなされています。他には、9～10世紀の室または兵舎跡とみられる竪穴状遺構が15基ほど集中し、検出されています。溝は規模の大きなものもありますが、いずれも部分的な検出であり、政庁、国衙域などを区画するものとしては確認されていません。しかし、南部の現況の水路部分には、中世の溝に先行する大溝の存在が確認されており、国府域の南端を示すとも考えられています。

出土遺物には、官衙の存在を示すように円面硯、風字硯、転用硯などの硯や綠釉陶器、「官」の墨書き土器、「我道」の刻書き土器がみられます。これらの遺物はやや南部に多く出土していますが、全面的に中世における削平が行われていることから移動しているとも考えられています。また、土佐国府跡の調査では古代以降、中世（13世紀）を中心とする遺構、遺物も数多く検出されており、鎌倉時代における守護所の存在も国府に統く中世土佐の政治、経済の中心として考えなければならないようです。

現在のところ、土佐国府跡は緑豊かな田園地帯ですが、開発の波は強く押し寄せており、重要遺跡として今後の保存が望まれるところです。



金屋地区の掘立柱建物跡(第10次調査)

6 土佐国分寺跡

土佐国分寺跡は、現国分寺（四国第29番霊場）の寺地を中心に創建当時の土壘が残されており、大正11年に国指定史跡となっています。土壘は寺の東側を中心にして残され、高さは1.5～4mです。また、国分寺の周辺、特に西側の水田、畠から瓦片、土器などが多く散布しています。現況では奈良時代の寺院跡を示す遺構は土壘以外に残されていませんが、書院の南庭には塔心礎が庭石として残されています。また、平安時代前期の製作とみられる梵鐘が伝えられており、長宗我部国親、元親父子の再建になる現金堂とともに重要文化財に指定されています。

国分寺跡に関する発掘調査は、これまで現状変更に伴い数回行われており、柱穴、溝、瓦溜等が検出されており、奈良～平安時代の瓦、土器、串状の杉木にさされた富寿神宝10枚などが出土しています。しかし、具体的な伽藍配置を明らかにするには至りませんでした。昭和62・63年度には、国分寺の寺域、伽藍配置を確認するために国庫補助事業として発掘調査が行われました。昭和62年度の調査では、現参道の中央部から6×3間の礎石建物跡が、昭和63年度の調査では現金



土佐国分寺跡遺構図

堂の北側から古い時期の柱穴群が発見されており、従来考えられていた東大寺式の伽藍配置には一致しないと思われます。今回までの調査で出土した瓦には、素弁2種、単弁2種、複弁1種の計5種類の軒丸瓦がみられ、軒平瓦は三重の重弧文瓦1種類のみでした。

従来、東側に残される土壙をもとに、東西500尺、南北450尺の寺域が考えられ、東大寺式の伽藍配置と推定されていましたが、確認調査の結果からみれば、伽藍配置の決定は難しく、また、寺域の北に延びる柱穴群などからは、先行する寺院の存在も考えなくてはならないようです。



土佐国分寺跡



塔心礎

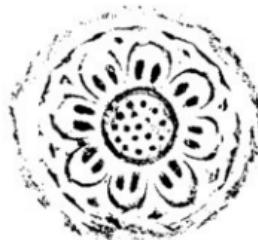
7 比江廃寺跡

比江廃寺跡は、県内最古の白鳳時代の寺院跡であり、塔心礎が現在残されています。この塔心礎を中心とする塔跡は国指定史跡となっています。比江廃寺の伽藍配置は、未調査であり不明な点が多いのですが、塔跡の東に瓦の集中出土地があることなどから東部に金堂が位置する法隆寺式の伽藍配置をとるものと推定されています。

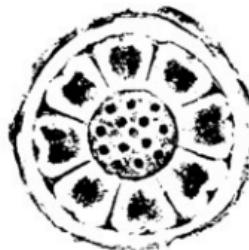
塔心礎は、 $3.4 \times 2.21\text{m}$ の砂岩であり、中央に直径81cmの円柱穴、さらにその中には直径15cmの舍利孔がみられます。塔心礎の周辺は、昭和44年に史跡整備のため調査が行われ、塔跡の基壇となる栗石の乱積みが10cmほどの厚さで確認されています。この結果、塔心礎は移動しておらず、塔基壇は1辺11.6mであることが判明しています。

比江廃寺跡から出土した瓦では、複弁八葉蓮花文の軒丸瓦と均正忍冬唐草文の軒平瓦の組み合わせが中心と考えられ、他に単弁八葉蓮花文と唐草文、波文縁複弁八葉蓮花文と三重弧文の組み合わせが考えられるので、法隆寺系と川原寺系の2者が存在します。また、瓦の中には土佐國分寺跡から出土した瓦と同じものがあり、時代が下がることから、比江廃寺が國分尼寺とされていたとも考えられています。

平成元年には、塔心礎東側の工場廃止に伴い試掘調査が行われ、一部分ですが瓦溜や集石が検出されており、寺域及び伽藍配置確認のための本格的調査が望まれるところです。



複弁蓮花文瓦



単弁蓮花文瓦



均正唐草文瓦



忍冬唐草文瓦

比江廃寺跡出土瓦



比江廢寺跡



比江廢寺跡瓦溜

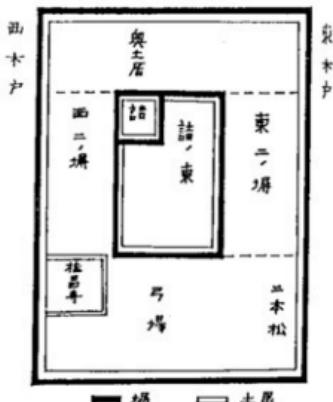
8 田村城跡

田村城跡は、室町時代に土佐国の守護代として入国した細川氏の居城として知られており、一部に残されている土塁を中心とした部分が南国市指定史跡となっています。細川氏が田村に居館を築いたのは、細川頼益が1380年に守護代として入国した後であり、以後14~15世紀にかけて満益、持益、勝益3代にわたり使われたと考えられます。田村城跡の復元研究は島田豊寿氏による歴史地理学的研究によって行われ、長宗我部地検帳、地籍図などにより、復郭式の平城形式を取る城館であるとされています。城郭は3重（一部2重）の濠に囲まれた複濠複郭であり、中央部の北西部寄りに詰が位置しています。詰の東と南には内郭が存在し濠を隔てて周囲を取り囲むように外郭と外濠をみることができます。外郭部には二ノ堀、弓場、奥土居などの地名が残されており、郭中寺としては桂昌寺が西側に位置しています。

田村城跡の発掘調査は、高知空港拡張整備事業に伴い南部の一部と水路の改修により西部の一部が行われています。西及び南の外濠については、水路の改修によりほぼ全体が調査され、幅4~5m、深さ3.5mの濠の存在が確認されました。また、濠の底からは祭祀に使われたと考えられる土師質土器7個と「奉転読大般若経……」と書かれた大永年間（1521~1527年）の年号をもつお札が出土しています。さらに東南部では、郭内を区画するとみられる溝や掘立柱建物跡、200点余

りの土師質土器が出土した土器窯など、田村城跡を知る上で貴重な資料が出土しました。

現況では人家が建ち並び、城郭としての形態をみるとほとんどできませんが、歴史地理的手法により推定復元された田村城跡を一部ですが発掘調査により確認することができたことは大きな意義があり、今後、残された地域についても、保存と調査の進展が望まれるところです。



田村城跡復原図



外濠西側



外濠底部出土の土師質土器とお札

9 岡 豊 城 跡

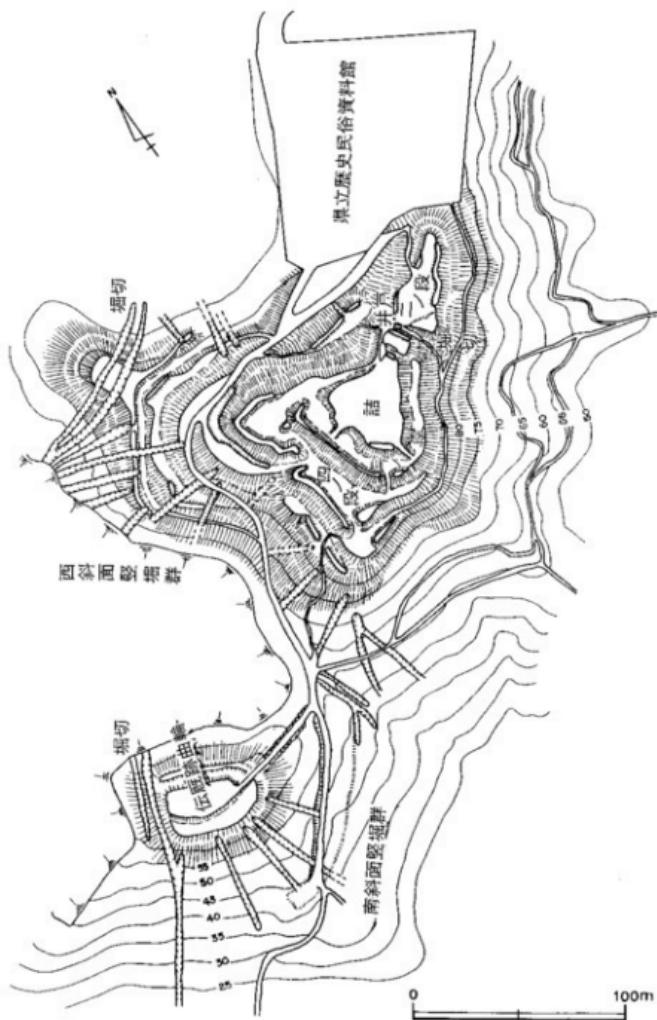
岡豊城跡は、長宗我部氏の居城として有名な中世城跡であり、昭和30年2月15日付けで県指定史跡となっています。岡豊城跡の立地する岡豊山は、高知平野へと突出した独立丘陵です。標高97mの山頂部を中心に岡豊城跡は築城されており、その山頂部からの展望は広く高知平野に開け、南には遠く太平洋の荒波を望むことができます。

岡豊城跡の築城された時期と当初の構造については文献等の資料もなく、不明な点が多いのですが、南北朝には周辺部での合戦の記録などもあり、すでに存在していたと考えられます。長宗我部氏自身は、鎌倉時代に地頭として土佐に入国したと考えられており、長岡郡の宗部郷に定住したところから、香美郡の宗我部氏（香宗我部氏）と区別するために長宗我部氏と名乗ったといわれています。以後、室町時代には土佐国の守護代である細川氏の被官となり、夢窓疎石の創建になる吸江庵の寺奉行になるなど、その勢力を拡大しています。しかし、細川氏が土佐から帰京するにおよんで、長宗我部氏の勢力も衰退し、19代兼序の代には周辺の本山、山田、吉良、大平氏等に攻められ、永正5～6（1508～1509）年には



岡豊城跡航空写真

岡豊城も落城しています。20代国親は一条氏の救済により岡豊城を再興し、以後21代元親が四国を制覇し、天正16（1588）年に大高坂城（現高知城）に移転するまでの間土佐の中心として栄えたようです。

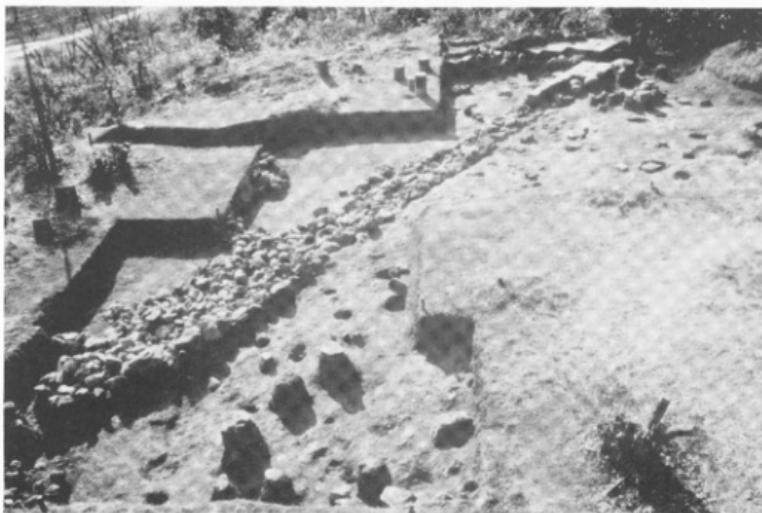


岡豊城跡縄張図

岡豊城跡は山頂部の詰を中心とする主郭部と西の伝廐跡曲輪、南の伝家老屋敷曲輪の2ヶ所の副郭からなる連立式の城跡であり、現在、主郭部には土塁、堀切、堅堀、井戸などの遺構がよく残されています。また、昭和60年度からは、県立歴史民俗資料館建設に伴い歴史公園として整備するために発掘調査が行われており、礎石建設跡、土塁の石垣などが発見されています。出土遺物は、多量の土師質土器、輸入陶磁器、国産陶器の他に石臼、硯、瓦、古錢など、多種にわたり、当時の生活の一端を知ることができます。

詰、詰下段、三ノ段には、 4×5 間、 2×5 間、 $4 \sim 5 \times 9$ 間の規模の大きい3棟の礎石建物跡が発見されており、注目されます。特に詰の建物跡には土台となる石敷遺構が存在しており、土壁をもつ重層の望楼が天守の前身的な建物として建てられていたと考えられます。また、発掘調査の結果これまで知られていなかつた土塁内側の石垣も確認されました。石垣は、30~50cmの割石を約1mの高さに積んだものであり、三ノ段西側の土塁によく残されています。

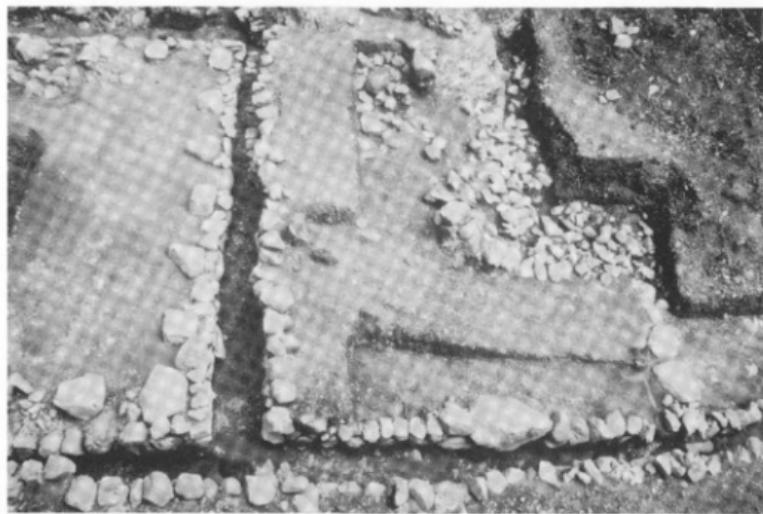
以上のように、発掘調査によって発見された遺構などからみれば岡豊城跡は、中世城跡ではありますが、きわめて近世の城に近い要素があり、中世から近世への変化を知る上で非常に重要な城跡として位置付けることができます。



詰礎石建物跡(第1次調査)



詰下段礎石建物跡(第2次調査)



三ノ段礎石建物跡と階段跡(第5次調査)

III 南国市遺跡地名表

地図No	名 称	所 在 地	種 别	現 況	時 代	備 考
1	桑の川の鳥居杉	南国市桑の川宮の谷	樹 木	境 内	近 世	市天然記念物
2	奈路の堀割	" 奈路字宮ノ谷	灌漑用 隧道	山 林	"	市史跡
3	白木谷洞窟遺跡	" 白木谷字北総太ヶ打	洞穴遺跡	"	弥 生	
4	白木谷の タチバナ	" " 字中山1752他	樹 木	"	近 世	県天然記念物 7本
5	亀ヶ森城跡	" 亀岩字亀ヶ森	城 館 跡	"	中 世	消滅
6	坂本城跡	" " 字落合	"	畠・山林	"	
7	亀岩城跡	" " 字土居	"	山 林	"	
8	幸野遺跡	" " 字幸野	散 布 地	宅地・畠	近 世	
9	坂本龍馬先塋 の地(初代)	" " 字大坊696-1	墓	墓 地	"	市史跡
10	才谷寺跡	" "	社 寺 跡	"	"	
11	才谷遺跡	" "	散 布 地	畠	中 世	
12	坂本龍馬先塋 の地(二・三代)	" " 字大浜441	墓	墓 地	近 世	市史跡
13	天行寺跡	" 天行寺字西岡	社 寺 跡	山 林	中世・近世	
14	口ミノヲ谷古墳	" 領石字口ミノ尾谷	古 墓	道 路	古 墓	
15	牛月古墳	" " 字牛月	"	水 田	"	
16	八反田遺跡	" " 字八反田	散 布 地	"	中 世	
17	笛原古墳	" " 字笛原	古 墓	水田・畠	古 墓	
18	堂屋敷遺跡	" 植野字 堂屋敷・岸上・田中	散 布 地	宅 地 水田・畠	弥 生 平安～中世	
19	久礼田城跡	" 久礼田字中山田	城 館 跡	山 林	中 世	
20	中山田古墳	" " "	古 墓	宅 地	古 墓	
21	高松古墳	" " 字高松	古 墓	道 路	古 墓	消滅
22	東屋敷遺跡	" " 字東屋敷	散 布 地	水 田	古 墓～平安	
23	中ノ土居城跡	" " 字中ノ土居	城 館 跡	宅 地	中 世	
24	東ノ土居遺跡	" " 字東ノ土居	散 布 地	水 田	古 墓～中世	
25	上岡越遺跡	" " 字上岡越	"	"	奈良・平安	
26	鶴ノ骨 1・2号墳	" " 字鶴ノ骨	古 墓	調 整 池	古 墓	消滅
27	前嶋遺跡	" " 字前嶋・前田	散 布 地	水 田	平安～中世	

地図No	名 称	所 在 地	種 别	現 況	時 代	備 考
28	白猪田遺跡	南国市久礼田字 白猪田・大西・上中鷲	散 布 地	水田・畠	古墳～平安	
29	沖ノ土居城跡	" " 字沖ノ土居	城 館 跡	水 田	中 世	
30	植田古墳群	" 植田字城ヶ谷1428	古 墓	荒 焦 地	古 墓	消滅
31	植田土居城跡	" " 字二ノ擇	城 館 跡	宅 地 水田・畠	中 世	
32	寺中遺跡	" " 字寺中・東野	散 布 地	水田・畠	古墳～平安	
33	泉ヶ内遺跡	" " 字 泉ヶ内・中川・石仏他	"	"	"	
34	畠ヶ田遺跡	" " 字 畠ヶ田・柳ヶ本	"	"	"	
35	ハザマダ遺跡	" " 字 ハザマダ・高野・野寄他	"	"	"	
36	毘沙門の滝	" 門豊町滝本	滝	山 林		市名勝
37	滝本遺跡	" " " 字北字	散 布 地	畠	古墳・近世	
38	芝の前1号墳	" " 定林寺字 芝の前	古 墓	山 林	古 墓	
39	" 2号墳	" " " "	"	"	"	
40	" 3号墳	" " " "	"	"	"	
41	長畝古墳	" " " 字長畝	"	"	"	
42	" 2号古墳	" " " "	"	"	"	
43	" 3号古墳	" " " "	"	"	"	
44	野津古古墳	" " " 字 野津古	"	"	"	
45	藤ヶ井遺跡	" " " 字 藤ヶ井	散 布 地	畠	弥 生	
46	杉ノ本遺跡	" " " 字 杉ノ本	"	"	古墳～平安	
47	大嵐遺跡	" " " 字大嵐	"	"	繩文～平安	
48	栄ニ田遺跡	" " " 字 栄ニ田・宮ノ前他	"	水田・畠	繩文～近世	
49	奥谷北遺跡	" " 小蓮字奥谷	"	山 林	繩 文	
50	唐流の墓	" " " "	古 墓	墓 地	近 世	
51	奥谷南遺跡	" " " "	散 布 地	山 林	繩 文	
52	宮ノ前遺跡	" " " 字宮ノ前	"	畠	弥生～平安	
53	小野土居城跡	" " " 字小山田	城 館 跡	宅 地 水 田	中 世	消滅
54	小山田遺跡	" " " "	散 布 地	畠	弥生～中世	
55	千頭屋敷遺跡	" " " 字宮ノ前	屋 敷 跡	宅 地 道 路	中 世	消滅
56	小野古城跡	" " " "	城 館 跡	山 林	"	

地図No	名 称	所 在 地	種 別	現 況	時 代	備 考
57	蓬添屋敷遺跡	南國市岡豊町小蓮字美泥	屋敷跡	水田・畑	中世	
58	清山遺跡	" " " 字清山	散 布 地	"	弥生～中世	
59	山崎遺跡	" " " 字山崎	"	学 校	古 墳	
60	岩原谷遺跡	" " " 字岩原谷	"	水田・畑	弥生～平安	
61	大岩遺跡	" " " 字光リ岩	塚 跡	山 林	近 世	
62	梅ノ本遺跡	" " " "	散 布 地	荒 薙 地	弥 生	
63	小蓮古墳	" " " "	古 墓	山 林	古 墓	県史跡
64	" 2号墳	" " " "	"	"	"	
65	" 3号墳	" " " "	"	"	"	
66	" 4号墳	" " " "	"	"	"	
67	石谷土居城跡	" " " 字天神ノ前	城 館 跡	宅地・畑	中 世	
68	天神の前遺跡	" " " "	散 布 地	畑	繩文・古 墓	
69	天神の前古墳	" " " "	古 墓	山 林	古 墓	
70	蓮如寺跡	" " " 字蓮如寺	社 寺 跡	"	中 世	
71	下野土居城跡	" " " 字下野	城 館 跡	宅 地 水田・畑	"	
72	舟岩1号墳	" " " 字舟岩	古 墓	山 林	古 墓	
73	" 2号墳	" " " "	"	"	"	
74	" 3号墳	" " " "	"	"	"	
75	" 4号墳	" " " "	"	"	"	消滅
76	" 5号墳	" " " "	"	"	"	"
77	" 6号墳	" " " "	"	"	"	
78	" 14号墳	" " " "	"	"	"	消滅
79	" 17号墳	" " " 字池谷	"	畑	"	"
80	狭間古墳	" " " 字狭間	"	"	"	" * 発掘調査
81	谷土居遺跡	" " " 字重岩	屋 敷 跡	造 成 地	中 世	消滅
82	舟岩7号墳	" " 笠ノ川字 大平山	古 墓	山 林	古 墓	"
83	" 8号墳	" " "	"	"	"	"
84	" 9号墳	" " "	"	畑	"	"
85	" 10号墳	" " "	"	"	"	"

地図No	名 称	所 在 地	種 别	現 態	時 代	備 考
86	舟岩11号墳	南国市岡豊町笠ノ川字 大平山	古 墳	畠	古 墳	消滅
87	" 12号墳	" " " "	"	"	"	"
88	" 13号墳	" " " 字船岩	"	"	"	
89	" 15号墳	" " " "	"	"	"	消滅
90	" 16号墳	" " " "	"	"	"	"
91	瀧戸古墳	" " " 字 瀧戸696	"	水 田	"	
92	柳ヶ首古墳	" " " 字 柳ヶ首	"	道 路	"	消滅
93	西村土居城跡	" " " 字西村	城 館 跡	畠	中 世	
94	西村遺跡	" " " "	散 布 地	水田・畠	弥生～平安	
95	西村古墳	" " " "	古 墳	山 林	古 墳	
96	西ノ久保遺跡	" " " 字 西ノ久保	散 布 地	水田・畠	弥生～平安	
97	新城城跡	" " " 字新城	城 館 跡	山 林	中 世	
98	寺家遺跡	" " " 字寺家	散 布 地	道路・畠	"	
99	寺家古墳	" " " "	古 墳	山 林	古 墳	
100	長源古墳	" " " (東村)字長源	"	"	"	
101	長源遺跡	" " " (東村)字長源	散 布 地	畠	"	
102	笠ノ川窯跡	" " " 字楓谷	窯 跡	池	"	消滅
103	池尻古城跡	" " " "	城 館 跡	山 林	中 世	
104	池尻遺跡	" " " 字池尻	散 布 地	畠	"	
105	両城城跡	" " " 字両城	城 館 跡	栗 林	"	
106	土居遺跡	" " " (東村)字両城土居	"	"	"	
107	別宮八幡宮	" " 八幡	神 社	神 社	"	
108	藏本1号墳	" " " 字藏本	古 墳	山 林	古 墳	
109	" 2号墳	" " " "	"	"	"	発掘調査
110	藏本遺跡	" " " "	散 布 地	水田・畠	古墳～平安	
111	岡豊城跡	" " " 字岡豊山	城 館 跡	山 林	中 世	県史跡
112	長宗我部一族 の墓所	" " " 字重ネ岩	古 墓	墓 地	"	市史跡
113	長宗我部一族 の寺跡	" " " "	寺 社 跡	畠	"	
114	香川五郎次郎 義和の墓	" " " 字岡豊山	古 墓	山 林	"	市史跡

地図№	名 称	所 在 地	種 別	現 況	時 代	備 考
115	岡豈城跡 伝城跡曲輪	南国市岡豊町八幡字馬屋床 1098-2・1098-4	城 館 跡	山 林	中 世	市史跡
116	西谷遺跡	" " " 宇西谷	散 布 地	荒 薙 地	"	
117	米内古墳	" " " 宇米内	古 墓	神 社	古 墓	
118	谷泰山先塋の地	" " " 宇 米内1063	墓	墓 地	近 世	市史跡
119	市場遺跡	" " " 宇市場他	散 布 地	畑・学校	中 世	
120	蒲原山古墳	" " " 蒲原字蒲原山	古 墓	山 林	古 墓	
121	木ノ下遺跡	" " " 宇 木ノ下・宮ノ前	散 布 地	宅 地・ 水 田	弥生～古墳	
122	土居ノ前遺跡	" " " 宇 土居ノ前・芝ノ前	"	水 田・畑	"	
123	蒲原山中古墳	" " " 宇蒲原山	古 墓	山 林	古 墓	消滅
124	蒲原山東1号墳	" " " "	"	宅 地	"	"
125	" 東2号墳	" " " "	"	"	"	"
126	蒲原屋敷遺跡	" " " 宇 土居屋敷	屋 敷 跡	"	中 世	
127	天神丸遺跡	" " " 常通寺島字 天神丸	散 布 地	水 田・畑	古 墓～古代 ・ 中 世	
128	桑名屋敷遺跡	" " " 宇 東和田	屋 敷 跡	宅 地・ 畑	中 世	消滅
129	吉田土居城跡	" " 吉田字 二ノ郷・土居・明田	城 館 跡	宅 地・ 水 田	"	
130	吉田遺跡	" " "	散 布 地	"	古 墓～中 世	
131	中島町田遺跡	" " 中島字町田	"	水 田・畑	古 墓～平安	
132	カツツ池遺跡	" " " 宇 カツツ池	"	"	中 世	
133	中内土居城跡	" " " 宇島田	城 館 跡	宅 地・ 畑	"	消滅
134	中島土居城跡	" " " "	"	"	"	"
135	小籠土居城跡	" " 小籠字西土居	"	宅 地・ 水 田	"	
136	小籠遺跡	" " " 宇 熊野丸・南野	散 布 地	宅 地・ 水 田・ 畑	弥生～近 世	
137	左右山古墳	" 左右山字ハザマ山	古 墓	畑	古 墓	消滅
138	五反田 ヤニヅエ遺跡	" " 宇 五反田・ヤニヅエ	散 布 地	道 路・ 畑	古 墓～中 世	
139	国分大塚古墳	" 国分字大塚	古 墓	畑	古 墓	
140	国分寺遺跡群	" "	散 布 地	宅 地・ 水 田・ 畑	古 墓～近 世	
141	土佐国分寺跡	" " 字国分寺	寺 院 跡	社 寺・ 水 田・ 畑	奈良～平安	国史跡・ 発掘調査
142	乾家墓所	" 比江	古 墓	墓 地	近 世	
143	比江山城跡	" " 字城山	城 館 跡	畑・山林	中 世	市史跡

地図No	名 称	所 在 地	種 別	現 況	時 代	備 考
144	比江房寺跡	南国市比江字 土居屋敷・尼ヶ内	寺 院 跡	宅 地 · 水 田	白鳳～奈良	國史跡 · 発掘調査
145	土佐國府跡	" " 字 国 庁 · 松ノ下 · 金屋他	官 衙 跡	水 田 · 畑	弥生～中世	県史跡 · "
146	三島城跡	" 三島字神母	城 館 跡	山 林 · 墓 地	中 世	
147	三島山古墳	" " 字三島山	古 墳	畠	古 墳	
148	南神母遺跡	" " 字南神母	散 布 地	"	"	
149	渕ノ上遺跡	" " 字 渕ノ上 · 西埜野	"	水 田 · 畑	弥生～平安	
150	三島遺跡	" " 字 芝 · 高村 · 北辻他	"	"	"	発掘調査
151	福重遺跡	" " 字福重	"	水 田	奈良～中世	
152	水通遺跡	" " 字水通 · 原田	"	畠	弥生～平安	
153	三添遺跡	" " · 上末松 · 下末松	"	水 田 · 畑	弥生～近世	
154	南池知遺跡	" " 字南池知 · 乾	"	"	古 墳～中世	
155	池ノ上遺跡	" " 字池ノ上 · 上末松字 横堀 · 土居	"	"	"	
156	陣山古墳	" 陣山	古 墳	"	古 墳	
157	三町遺跡	" " 字三町	散 布 地	畠	古 墳～中世	
158	白山遺跡	" " 字白山	"	"	古 墳～平安	
159	神明遺跡	" " 字神明 · 北荻野	"	"	"	
160	東弥市遺跡	" " 字東弥市 · 弥市	"	"	"	
161	おさばい杉	" 甘枝字 上河原西55番地先堤防上	樹 木	提 防 上	近 世	市天然記念物
162	廣井土居城跡	" " 字中屋敷	城 館 跡	園芸園地	中 世	消滅
163	後藤丸遺跡	" 下末松字 後藤丸 · センダン丸	散 布 地	宅 地 · 畑	弥生～近世	
164	遍路道標	" 下末松313番地東側	道 標	路 上	近 世	市史跡
165	土鳥島遺跡	" 下末松 · 東崎 · 小籠他	散 布 地	水 田 · 畑	弥生～近世	
166	ニタ丸遺跡	" " 字 ニタ丸 · 水車 · 西岩田	"	畠	"	
167	久保遺跡	" " 字 久保 · 久保屋	"	水 田 · 畑	古 墳～近世	
168	辺路石南遺跡	" " 字辺路石南	"	畠	平安～中世	
169	米屋の東遺跡	" " 字米屋の東	"	水 田 · 畑	古 墳～近世	
170	中屋遺跡	" 上末松字中屋	"	畠	古 墳～平安	
171	八反地遺跡	" " 字 八反地 · 田中	"	"	"	
172	末松遺跡	" " 字末松	"	"	古 墳～中世	

地図No	名 称	所 在 地	種 别	現 態	時 代	備 考
173	五反地遺跡	南国市上末松字五反地	散 布 地	畑	古墳～中世	
174	野村丸遺跡	" 西山字野村丸・ 村田丸・吉良川丸他	"	水田・畑	弥生～平安	
175	金地遺跡	" 金地字比羅南・西・東 西山字浜田丸・竹村丸・松原丸	"	"	弥 生・ 平安～中世	
176	越戸1号墳	" 小篠字越戸161-14	古 墳	宅 地	古 墳	消滅
177	" 2号墳	" " " 161-15	"	"	"	"
178	忠兵衛遺跡	" " 字 忠兵衛・茂祐・宮本	散 布 地	水田・畑	中 世	
179	坂折山 1・2号墳	" 野中字坂折山	古 墳	畑	古 墳	消滅
180	年越山1号墳	" " 字年越山	"	墓 地	"	"
181	" 2号墳	" " "	"	荒 焕 地	"	"
182	" 3号墳	" " "	"	"	"	"
183	野中寺跡	" " 字仁尾603	寺 院 跡	線 路・ 水田・畑	平 安	
184	西鶴塚遺跡	" 東崎字西鶴塚	散 布 地	宅 地	古墳～平安	
185	東崎遺跡	" " 字 北芝田・五軒屋敷他	集 落 跡	学 校・ 水田・畑	弥生～中世	
186	後免の オガタマの木	" 後免町40	樹 木	雜 種 地		市天然記念物
187	包末井ノ内遺跡	" 包末字 井ノ内・ギヨゾヲカ	散 布 地	畑	绳 文・ 古墳～平安	
188	包末土居城跡	" " 字四方田	城 館 跡	水 田	中 世	
189	包地土居城跡	" 金地字城ノ丸	"	"	"	
190	垣添遺跡	" " 字垣添・クノ坪	散 布 地	"	古墳～中世	
191	芝田遺跡	" " 字 芝田・橋田・牛ノ前	"	"	"	
192	若宮遺跡	" 福船字若宮	"	畑	弥生～平安	
193	岩村土居城跡	" " 字 城ノ内・西ノ内	城 館 跡	水 田	中 世	
194	屋根添遺跡	" 堀ノ内字屋根添	散 布 地	畑	古 墳	
195	芝ノ端遺跡	" " 字芝ノ端	"	水 田	"	
196	石神遺跡	" " 字石神	"	畑	弥生～平安	
197	古流曾遺跡	" " 字 古流曾・立田字大中他	"	水田・畑	古墳～平安	
198	上野田土居城跡	" 上野田	城 館 跡	宅 地・社 墓 ・ 水 田	中 世	
199	シロイ島遺跡	" " 字 シロイ島・高木・横田	散 布 地	水田・畑	古墳～中世	
200	道ノヘ遺跡	" " 字道ノヘ	"	水 田	"	
201	ムロカ内遺跡	" " 字 ムロカ内・ハウロク	"	"	弥生～中世	

地図No	名 称	所 在 地	種 别	現 況	時 代	備 考
202	カド遺跡	南国市下野田字 カド・用ノ内	散 布 地	烟	古墳～平安	
203	弊串遺跡	" " 字弊串	"	水 田	"	
204	野田土居城跡	" " 字城	城 館 跡	"	中 世	
205	横落遺跡	" " 字 横落・修理田他	散 布 地	水田・烟	弥生～平安	
206	竹ノ後遺跡	" 明見字竹ノ後	"	"	弥生・古墳	
207	明見彦山1号墳	" " 字彦山	古 墳	山 林	古 墳	市史跡
208	" 2号墳	" " "	"	"	"	消滅
209	" 3号墳	" " "	"	"	"	市史跡
210	狸岩1号墳	" " 字狸岩	"	"	"	消滅
211	" 2号墳	" " "	"	"	"	
212	" 3号墳	" " "	"	"	"	
213	北野寺遺跡	" 篠原字北野寄	散 布 地	線路・ 水田・烟	弥生～平安	
214	若宮ノ東遺跡	" " 字 若宮ノ東・若宮ノ前他	"	宅地・ 水田・烟	弥生～中世	
215	北泉遺跡	" " 字北泉・中泉他	"	"	弥生～平安	
216	大篠遺跡	" 大塙字姫倉	"	学 校	弥 生	
217	門田遺跡	" " 字門田・土田	"	烟	古墳～中世	
218	桧物ヶ内遺跡	" " 字 桧物ヶ内・大黒田他	"	"	古墳～平安	
219	ヌメル遺跡	" " 字ヌメル	"	"	弥生～平安	
220	カントワリ遺跡	" " 字カントワリ	"	"	繩 文 · 古墳～平安	
221	渕ヶ上遺跡	" " 字渕ヶ上・永田	"	"	"	
222	住吉山1号墳	" " 字舟岡山	古 墳	山 林	古 墳	
223	" 2号墳	" " "	"	"	"	消滅
224	" 3号墳	" " "	"	"	"	"
225	" 4号墳	" " "	"	"	"	"
226	野津合遺跡	" " (住吉野)字 野津合他	散 布 地	水田・烟	古墳～平安	
227	乱戸遺跡	" " 字 乱戸・明見字横田	"	"	弥生～平安	
228	吾岡山古墳	" " 字吾岡山乙2288	古 墳	学 校	古 墳	消滅
229	吾岡山南遺跡	" " "	散 布 地	烟	古墳～平安	
230	茶田遺跡	" " 字茶田	"	水 田	古 墳	

地図No.	名 称	所 在 地	種 别	現 況	時 代	備 考
231	神田遺跡	南国市大塙字神田	散 布 地	水 田	古墳～平安	
232	郷の前遺跡	" " 字郷の前	"	水田・畠	古 墳	
233	八木土居城跡	" " 字城	城 館 跡	宅 地 · 水田・畠	中 世	
234	関町田遺跡	" " (関)字町田	散 布 地	水 田	弥 生	銅鐸出土地
235	表中内遺跡	" 立田字 表中内・両宗・秋竹	"	"	弥生～平安	
236	柚木内遺跡	" " 字柚木内	"	水田・畠	古墳～平安	
237	上横田遺跡	" " 字上横田	"	"	"	
238	平枕遺跡	" " 字平枕	"	宅 地 · 水 田	弥生・古墳	
239	大北遺跡	" " 字大北	"	畠	古墳～中世	
240	寺ノ前遺跡	" " 字神母ノ木・ 寺ノ前・柳内他	"	宅地・畠	弥生～中世	旧神母ノ木遺跡
241	北角田遺跡	" " 字北角田	"	畠	弥生～平安	
242	立田土居城跡	" " 字西ノ内	城 館 跡	水 田	中 世	
243	徳弘土居城跡	" " 字神木内	"	宅 地 · 水 田	"	
244	高添遺跡	" " 字高添	散 布 地	水田・畠	弥生～平安	
245	修理田遺跡	" 田村字 修理田・平木他	"	"	"	
246	田村遺跡群	" " 字 西見当・カリヤ他	集 落 跡	丘陵・宅地 水田・畠	绳文～近世	発掘調査
247	田村城跡	" " 字城他	城 館 跡	宅 地 · 水 田	中 世	市史跡・ 一部発掘調査
248	千屋城跡	" " 字本吉	"	"	"	(野見嶺南墓)
249	勤王志士 島村衛吉氏墓所	" 下島	墓	墓 地	近 世	"
250	坂ノ松古墳	" " 字坂ノ松越し	古 墳	山 林	古 墳	
251	丸山五輪塔	" " "	古 墓	"	中 世	
252	丸山古墳	" 稲生(丸山)字丸山	古 墳	"	古 墳	
253	馬背東1号墳	" " ()字馬背	"	"	"	
254	" 2号墳	" " () "	"	"	"	
255	馬背西1号墳	" " () "	"	畠	"	
256	馬背古墳	" " () "	"	山 林	"	
257	井川1号墳	" " (井川)字井川山	"	"	"	
258	" 2号墳	" " () "	"	畠	"	
259	下田土居城跡	" " 字土居前	城 館 跡	水 田	中 世	

地図No	名 称	所 在 地	種 別	現 況	時 代	備 考
260	蛸の森城跡	南砺市稻生字蛸の森	城 館 跡	水 田	中 世	
261	三ツ城城跡	" 十市字 三ツ城・里改田字三ツ城他	" 山 林	"	"	
262	亀藏楊梅の原木	" " 字 星見畦566-2	樹 木	"	近 世	市天然記念物
263	遅倉遺跡	" " (錦城)字 遅倉6036-1	散 布 地	宅 地	弥 生	消滅 銅鑄出土地
264	中ノ城跡	" " 字西角	城 館 跡	"	中 世	
265	大北遺跡	" " 字 大北・東五反田	散 布 地	水 田・畠	弥生～平安	
266	禪師峯寺	" "	寺 院	寺 院	平 安	重文金剛 力士像2軒
267	上栗山遺跡	" " 字上栗山2610	散 布 地	水 田	"	
268	細川土居城跡	" " 字八丁	城 館 跡	宅 地・ 荒 燕 地	中 世	
269	栗山城跡	" " 字溝本	"	山 林	"	
270	西ノ芝遺跡	" 片山字 西ノ芝・イカル田・大岩	散 布 地	水 田・畠	弥生～中世	
271	岡の上組遺跡	" " 字 角田・ゴゼンヤシキ他	"	"	"	
272	鹿枝遺跡	" " 字鹿枝	"	"	弥生～平安	
273	秋葉山南平古墳	" " 字秋葉山南平	古 墳	古 墳	古 墳	古墳
274	藏光古墳	" " 字藏光	"	宅 地	"	消滅
275	中組遺跡	" " 字 中組・北城戸他	散 布 地	水 田・畠	弥生～中世	
276	片山土居城跡	" " 字城屋敷	城 館 跡	宅 地・ 水 田	中 世	
277	里改田遺跡	" 里改田 立石・土居他	散 布 地	宅 地・ 水 田・畠	弥生～中世	
278	里改田土居城跡	" " 字土居	城 館 跡	"	中 世	
279	城ノ後遺跡	" " 字 城ノ後・菊尾他	散 布 地	"	古 墳	
280	蚊居田土居城跡	" " 字澤城	城 館 跡	道 路・ 水 田	中 世	
281	浜田遺跡	" 浜田字浜田	散 布 地	畠	弥 生	
282	岩坂遺跡	" " 字 岩坂・小浦・三ヶ峰他	"	宅地・畠	"	
283	公家ノ前遺跡	" " 字公家の前	"	水 田・畠	古 墳～近世	(旧高田遺跡)
284	季重遺跡	" 前浜字季重	"	"	"	
285	司例田遺跡	" " 字司例田	"	"	"	
286	中屋敷遺跡	" " 字中屋敷458	"	"	弥 生	
287	前浜砲台跡	" " 字浜中	砲 台 跡	海岸砂丘	近 世	市史跡

南国市の遺跡

—平成元年度 南国市遺跡詳細分布調査報告書—

1990年3月31日

編集・発行 南国市教育委員会
印 刷 ル乙媛印刷社